

令和元年度 第15回政策推進会議報告

日 時 12月3日 13時37分～15時53分
場 所 4-1会議室
出席者 20人

1 次期尼崎市議会定例会市長提出予定案件について

総合政策局長から資料に基づき報告。

2 (仮称)尼崎市パートナーシップ宣誓制度の策定に対する市民意見公募手続の結果について

総合政策局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(市長) 局長研修、課長研修とあるが、部長研修はないのか。
→実施するよう調整する。
- ・(市長) 大きな変更は住所要件だが、市営住宅は影響ないか。
・この内容であれば問題ない。
- ・(市長) この制度はやり方がいろいろあると思うので、やってみて何かおかしいなという事例があれば皆さんに報告いただいて知恵を絞っていききたい。
- ・(市長) パブリックコメント募集結果 NO.4 の市の考え方に「これまでなかったこととされていた」という記載があるが、これは表現として正しいか。「事実婚よりは世間的に認められていない」という意味だということはあるが、改めて読むと気になる。
→表現を修正する。
- ・(市長) 研修の話に戻るが、学校の先生は大丈夫か。
・研修制度があるのでその中で取り組んでいく。

3 新人事評価項目による評価期間の開始(課長補佐以下)について

総務局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・別紙3で、「知識・技術の活用」の望ましい行動事例として「知識・技術を十分に習得している」とあるが、新しい職場に異動した1年目は不利になる。「習得しようとしている」という姿勢を評価できるような記載に変更してほしい。特に技術系の職場はこういうところが大事だと思う。
→検討する。そういうご意見があればどんどん出してほしい。
- ・(吹野副市長) 新しいはたらきガイドが出来て、総務局としてはより客観的に評価がしやすくなるように精緻に細分化して作った。しかし、それがかえって評価しにくくなるのではないかという意見もある。今回はこういう形でやってもらうが、これが最終形ではないので、意見を聴きながらより評価がしやすいやり方にブラッシュアップしていきたい。
- ・(市長) 評価期間がスタートするときにコンピテンシーの出番。これからどんな物差しで評価

を受けるのか、どういう行動を取れば組織に対する貢献度が高いと言われるのか、組織の一員として期待されることを極力具体的な事例で示そうとしている。これは評価期間の最後に示されても全く意味がない。最初にこういうことを目にするのが非常に大切なので、改めて研修等も行い徹底していただきたい。また、今回は望ましくない行動事例も入っており、評価する側にとっても耳が痛い項目がたくさん入っていると思う。このような内容で一方的に評価されると、評価を受ける側は不満が溜まるのではないかという第一印象を受けた。そういうことも含めて、今後もブラッシュアップをしていきたい。今回はひとまず、より具体的な行動事例を踏まえた対話ができるように、特に面談の際に活用してほしい。

4 尼崎市新ごみ処理施設整備基本計画（素案）に対する市民意見公募手続の実施について

経済環境局長から資料に基づき報告。

5 尼崎市都市計画道路整備プログラム（素案）に対する市民意見公募手続の結果について

都市整備局長から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

- ・5 ページに着手予定の路線が記載されているが、何をもって事業着手とするのか。また、前期までに事業着手ができなければ、この計画は変更するのか。
- 認可を受け工事を始めることをもって着手としたい。前期に着手できなかった場合は、後期に向けた計画見直しの際に変更をかけていく。
- ・（市長）着手という言葉の受け取り方に幅があるように思う。このように記載されると、優先順位が上がってよいよ実施することになったように見えるが、今までずっと着手と記載されていて、実施されないまま現在に至っている。これは法定の表現方法なのか。
- 法定ではない。
- ・（市長）誤解が生じないように工夫できたらいいと思う。
- ・（森山副市長）もともとこのプログラムは、着手しないところがどこかということをはっきりと示すという性格を持っている。以前は、どこの路線を整備する予定なのか不明瞭なまま、例えば3階建ての建物の規制などの権利制限をかけていた。しかし、それはやりすぎではないかという議論があって、かなり先にしか着手しないものや事業性の低いものについて明らかにするために、当面10年間の着手予定を示すことになったという経緯がある。
- ・（市長）私はずっと長洲久々知線はこれ以上やらなくていいと言っている。申し訳ないが、限られた財源の中では他にやるべきことがある。そういう状況であっても、このプログラムではいつも着手という表現で出してしまう。
- 市内路線は90%が整備出来ているものの10%未整備なところが残っており、それが30区間ある。その中でも優先順位が高いのが長洲久々知線と猪名寺椎堂線となるので、ここに記載している。
- ・（市長）必ず実施するわけではないということが、この資料からは読み取れない。
- ・（森山副市長）どちらかというところと検討の土俵に上げるイメージで、実際に実施するかどうかは

当然政策的な判断が伴う。

- ・(市長) しかし「事業着手予定時期・前期」と書かれたら、普通は前期に着手するんだと受け取ってしまう。

→確かに前期後期と書いてしまうと違和感はあるかもしれないが、優先順位が高いところはどこかということは示す必要がある。

- ・(市長) 多くの市民が私と同じような誤解ををすると思うので、どこかに着手についての注釈を記載したほうがいい。

→表現について検討する。

6 尼崎市教育振興基本計画（素案）に対する市民意見公募手続の実施について

7 尼崎市スポーツ推進計画（素案）に対する市民意見公募手続の実施について

教育次長から資料に基づき2点まとめて報告。(以下、質疑等)

- ・スポーツ推進計画(素案)13ページの【3 今後の具体的な取組】の2つめに(仮称)健康ふれあい体育館の記載があるが、市民説明会の資料では複合施設という表現を使っていないのではないか。機能統合施設としていなかったか。

- ・(市長) 従来、複合施設とは、設管条例が別のものが1つの建物に入っているという使い方をしてきたので、誤解を招かないように確認してほしい。

- ・(市長) 今日の資料には、事前説明で私が出した意見は反映されていないが、この場に出た意見も含めてどのように反映するのか。パブコメで出た意見と合わせて修正するのか。

→今のままパブコメにかけると、パブコメの後に審議会もあるので後々検討する。

- ・(市長) 今パブコメをかけるに当たって直したほうがいいと思って発言している。誤解がないように、よりわかりやすい資料になるように事前に意見を出しているのに、それが反映されないのは遺憾である。

→誤解されないよう修正する。

- ・(森山副市長) 教育振興基本計画は、教育委員会として何をなすべきかということを網羅的に整理したものと認識しているが、スポーツ推進計画については、前回と何が変わったのか。ここがポイントだということはどこか。

→前回の計画は施策が対象別、世代別だった。今回は基本方針を4つに決めて、それに基づいて具体的な施策を実施していこうとしている。

- ・(市長) 身近にスポーツを行っている人の割合を10%以上にするというのが前回の計画の目標で、それは達成している。しかし、子どもたちの体力テストの結果が芳しくないのが、今回の基本方針の第1に子どものスポーツを持ってきていると理解している。やはり子どもの時の習慣が大人になってからの習慣にも繋がるので、次に全世代型というか、ライフステージの観点に来て、最後はスポーツのまちという構成。今回、体育の先生たちが主体性を持って取り組めるようにここでは具体的に決め切らないということで当然いいと思うが、それだけ子ども中心の施策を考えていこうとしているのに、仮称が「あまっこ体力向上プラン」とかではなく、「尼崎市体力向上プラン」となっているのはやはり変だと思う。気合が感じられないとか、姿勢が違うのではないかと思ひ、事前説明でも意見を述べた。

- ・先ほど道路整備プログラムでは、着手と書くが実際にやるというよりは姿勢を示すようなも

のという話だった。教育振興基本計画では、「計画期間の早期に実施を目指す取組」とか「計画期間内に実施を目指す取組」という表現があるが、こちらもある意味で、姿勢も含めて記載しているという認識でいいか。財源を含めてどれくらいの経費がかかるかを聞けていないがどうか。

→行政計画なので、行政を進めるうえでの橋頭堡にならないと意味がないと考えており、それと財政とのバランスをどうとるのが重要だと考えている。少なくとも、両計画とも財政は念頭に置いて矛盾が生じないように配慮しながら記載しているので、お金がないとやれないという話にはならない。

・(市長) 各学校の主体性や特色を大事にする一方で、やはり市として教育委員会がリードして皆で共通認識を図りながら進めていくべきものもあり、教育振興基本計画はそこが意識されたものになっていると個人的には理解している。正直なところ、一人の保護者としては、この計画を読んで尼崎市の取組が伝わるかという点と厳しいと思う。市報 12月号の特集記事はすごくわかりやすく良かったので、保護者への説明は工夫してやってほしい。

→広報という意味ではもう少し考えないといけないが、少なくとも管理職が変わってもこの計画との関係を考えながら常に仕事をしていくということに意味があると思っている。大切だと思っていながら着手できていなかった案件や、やりたいけど現場との調整の中で論点から消えていくような案件もあえて書き込むことで引けないようにしているところもあり、そういうことが計画としては大事だと考えている。

・(市長) 計画には、教育委員会事務局として、各学校を巻き込んで色々とグリップしていきたいという意思を書き込んだという感じがする。保護者向けの打ち出し方としては、単なる詰め込み暗記型の教育ではなく自分で考え行動していく力を育成することや、それに向けてエビデンスベースの研究を行っていることなど、市報のほうがまとまっていた。

・スポーツ推進計画 11 ページのヘルスアップ尼崎戦略推進会議に係る記載で、「スポーツ・保健・福祉等の部門」とあり、当然スポーツは入っているのだろうが、教育という言葉ではいけないのか。スポーツという部門と考えたことはなかった。

→「スポーツ・保健・福祉等を所管する部門」等、表現について検討する。

・他の計画でも「障害」と「障がい」の表記があるが、こちらの計画の中でも混在している。これは単なる表記ゆれか。

→作成する中で議論があり、「障害者スポーツ」という言葉は漢字を使うなど、一定の考え方で整理をしている。

・例えば、基本計画 24 ページには「障がいのある児童生徒」と平仮名で記載されているが、スポーツ推進計画 14 ページでは「障害のある人」と漢字で記載されているが、これは表記ゆれに見える。

・(市長) やはり統一してからパブコメにかけるべきだと思う。気づいている誤りを直さずに出すのは市民に対して失礼だ。

・障害者団体からは漢字を使ってほしいと言われている。

・(市長) 漢字がいいという人も平仮名がいいという人もいて難しい問題だと思う。

8 その他

- 総合政策局長から、A-Lab Exhibition Vol.21「物語のものがたり」について説明。
- 資産統括局長から、自衛消防隊の活動項目チェックシートの活用について説明。
- 経済環境局長から、外食時の「おいしい食べきり」共同キャンペーンについて説明。
- 公営企業管理者から、「尼崎城」デザインマンホール蓋について説明。
- 議会事務局長から、議場コンサートについて説明。

以 上